

自然災害の脅威

西米良中学校

二年

上米良

結翔

昨年九月に百五十一人の人的被害、多くの建造物の被害をもたらした台風十四号。

僕の住む西米良村にも被害をもたらしました

た。西米良村の中心部、村所地区から僕の住

む小川地区までは、約二十キロメートル離れ

ていて、途中からは県道でつながっています。

その小川地区までつながっている県道で、土

砂崩れが発生しました。崩れた県道は、約一

か月通行止めになってしまいました。村道が

あったから良かったものの、村道から見た土

砂崩れ今まで見たことのない大きさのものでし

た。山の上でも高いところから崩れていて、

現在も片側交互通行が続いています。通行止

めが解除され、崩れた現場を通ると、ガード

レールの柱を残し、ビームが流されていたり、

電柱が丸ごと川に流されていたりました。

この土砂崩れで一番驚いたことは崩れたと

ころの電線の復旧方法です。土砂崩れの影響

で、電線が切れ、五日間停電していました。電柱が流されたり、折れたりしていたから、支える物が無いと思いましたが、残った電柱からワイヤーで固定したり、木に電線を固定する金具をつけたりしてつなげていて、復旧させた方々かとてもすごいなと思いました。また、大規模の土砂崩れの現場を一か月で通れるようにしてくださった、業者の方々に感謝を伝えたいです。

また、同じ道路では、二車線のうち一車線が崩れたり、アスファルトだけではなく、地面を固めるためのコンクリートが流れていたりました。この道路で崩れたところはすべて、僕が崩れないと思っ  
ていないところでした。自然というものは、分からないなと思います  
ました。

他に村内各地で、道路のアスファルトが流水によつて浮き上がりボコボコになったり、土石流によつて家屋へ土砂が入り込みました。その多くが現在は復旧してはいますが、西米良

村の広報誌を読んでみると、被害推定額が、十二億円を超えていました。西米良村の令和五年度の予算が、二十八億円だから、台風十号は、西米良村の予算のおよそ半分の被害を与えたことになりました。これを知ったときには、とても驚きました。

最近、雨が多いシーズンに入るとよく聞く言葉があります。それは、

「五十年に一度の大雨」と、

「これまで経験したことのない大雨」という言葉です。一か月に一、二回は聞いているような気がします。そして、雨が降ると、川が増水し、濁ります。これが日常になつていきます。ですが父に昔のことを聞いてみると、  
「まづ雨の降り方が違う」と、  
「言っていました。地球温暖化が、雨の降り方を変化させているのかなと思います。」

地球温暖化は、人間が引き起こした問題です。しかし、これを解決しようと今の生活を

やめることはできません。これから、二酸化炭素の排出を抑え、地球温暖化を抑えられるような行動をしたいです。

また、僕が生きているうちに、温度の上昇を抑え、土砂災害などで七くなる人がいなくなるよう、自然と共存できる世界を創造できるような仕事に就きたいです。